



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1

ミサの時間：月曜日-土曜日 6:20am (「朝の祈り」に続いて)
日曜日 7:00am、8:30am、9:30am



聖母が教えてくださる神の恵み

主任司祭 小西 広志 神父

『アヴェマリア』と祈ります。日々の生活の中で度あるごとに、マリアへの親しみを込めて私たちは祈るのです。かつては『めぐみあふれる聖マリア』と祈り始めました。マリアにあふれた恵みとはいったい何だったのでしょうか。八月は聖母被昇天の月ですから、マリアの生涯を振り返りながら、すこし考えてみましょう。

第一の恵みは、マリアが神から選ばれたという恵みです。しかもその選びは天地創造の前から、神のいのちの中で既に、一人の女性が救いのために選ばれていたのです。父である神は、御子イエスを通じて人々をご自分の愛の方へと招いておられる。その御父の愛の計画のためにマリアは選ばれたのです。しかしここで気をつけていただきたいのは、既にマリアは選ばれていたからといって、まるで神のロボットであるかのように、操り人形のようにマリアがあったのではないということです。マリアはこの神の選びに全身全霊を使って、自由な意思で『はい』と答えるのです。このマリアの『はい。仰せのごとくなれかし』から救いのドラマの最終章が始まっていったのです。

第二の恵みは、マリアが御子と最後まで一緒に居たことです。天使ガブリエルからお告げを受けたときから、ずっとマリアは御子、イエスと共に居ました。イエスの生涯を見てみると、いつもマリアが傍らにいます。誕生の時、エジプトへ逃げたとき、神殿でイエスを探しているとき。イエスの公生活が始まって、マリアはイエスに付かず離れずのところに居ました。カナの婚宴では、マリアはイエスに取り成しをしています。そして、イエスの最後の時、十字架の下で立ち続けたのはやっぱりマリアでした。ヨハネ福音書にあるように神の御言葉が人となったのがイエスです。マリアは一人の女性として自分の子どもであるイエスと生涯を共にしたばかりか、神の御言葉、神のひとり子と生涯を共にしたのです。そこにマリアに与えられた大きな恵みがあります。

第三の恵みはマリアが、その地上での生活を終えた後も神と共にあり、父と子と聖霊の神のいのちの交わりの中に居続けているということです。それが今日、教会が祝っている聖母の被昇天なのです。生まれる前から神の恵みのうちにいたマリアは、その生涯を神のひとり子イエスと共に過ごすという恵みを戴き、地上での生活を終えた後も、天上にあって神と共にいるのです。つまり、マリアの死後も、神からの恵みの絆は途切れてしまうことがなかったのです。再び主・キリストが来られるとき、私たちは神と相まみえることができます。しかし特別にマリアだけは、神のいのちの中に生きる恵みを既に戴いているのです。

マリアが戴いた三つの恵みは私たちとどのような関係にあるのでしょうか。私たちもマリアと同様にこの恵みを戴いています。天地の始まる前から神はわたしたち一人ひとりを価値あるものとして選んでおいてくださった。無駄なもの、必要のないものとして私たちがあるのではなく、私たちは生まれる前から大切なものとしてあるのです。そして洗礼によってイエスと共に生きる恵みを戴いた。マリアがイエスと共に歩んだように、私たちもイエスと共に十字架を背負って歩むのです。

神と共に生きる。人間に与えられたこれほどの恵みはあるのでしょうか。マリアが復活の恵みを既に戴いたように、私たちも復活の恵みを戴くのです。その意味でマリアは私たちの模範であり、私たちの生きる希望なのです。マリアのように生きる。それは清く正しく生きることではなく、神の恵みのうちに生きることには他ならないのです。